

会議録

会議の名称	西東京市立学校給食運営審議会（第8回）
開催日時	平成27年2月16日（月曜日）午前10時30分から正午
開催場所	田無小学校 ランチルーム
出席者	委員：有澤会長・宍戸副会長・新出委員・佐藤（文）委員・小野寺委員・小谷野委員・佐藤（栄）委員・杉原委員・久保田委員・立川委員 欠席：田中委員・可児委員・森下委員・熊谷委員・横田委員・早田委員 事務局：宮坂課長・近藤係長・石部主事
議題	1 中学校給食の検証について 2 その他
会議資料の名称	1 西東京市立中学校完全給食について（意見） 2 アンケートの速報値
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>学校運営課長： （挨拶）</p> <p>平成24年度に中学の完全給食がスタートして以降、その検証が行なわれていないため、改めて全9校の検証を行なうこととした。その素材としてアンケートの実施も決定した。検証は、前回のものを軸にしてその比較とアンケート結果を踏まえて加除を行なうてほしい。</p> <p>今日は前回の審議の継続とアンケートの速報値を報告する。また、会議終了後に試食回も予定しているので、現在の中学校給食を実際に食べて確認してほしい。</p> <p>○事務局： ・会議成立の確認 開催時の出席委員9名、委員数16名で過半数に達しているため、本審議会の成立を確認 ・傍聴の確認 なし ・配布資料の確認 資料1と2を配付</p> <p>議題1 中学校給食の検証について</p> <p>○会長： 先日、「西東京市の教育」が自宅配布され、給食費の改定に関して報道された。改めて、委員各位のご協力に感謝したい。</p> <p>中学校給食の検証については、第1期校の結果を踏まえ第2期校の給食をスタートさせた経緯がある。第2期校については検証をしていないので、改めて検証を行なおうということで前回から議論を始めた。</p> <p>前回の議論によれば、第1期校の調査項目は基本的に踏襲するものとし、これに付加したり、手直しすることを確認した。前回の議論をもとにして、資料1を作成しているので、その説明を求める。</p>	

事務局：

前回の検証項目は全11項だが、基本的に前回との比較が行ないやすいように引き続きこの項目を踏襲することになっていた。ただし、前回と同様のままではタイトルが相応しくないのではないのか、新たな調査項目として入れてほしいといった意見が上がった点を注意書きとして書いた資料だ。

「タイトル変更必要」とあるのは、前回の議論で変更しようとしたもの。「タイトル変更を考慮必要」とあるのは、前回の議論では決定には至らなかったが、改めて確認する必要があると思われるもの。また、本日結論は出ないとは思いますが、検証内容の方向性について出た意見を記述した。

本日は、まずはタイトルの変更等に関する意見集約を進めてほしい。

○会長：

今日の進め方だが、まずは変更の必要があるという部分に対する意見を聞きたい。ただし、改めて気付いた点がある場合には、遠慮なく発言してほしい。資料の確認をする。

(1)の実施回数については、「タイトル変更の必要なし」だが、学校によって実施回数が異なるために少なく感じる学校もあるという意見も出たが、様々な学校行事もありやむを得ないのだろうという意見もあったと思う。

○課長：

給食回数について補足したい。小学校は全校が年間189回ということになっているが、中学は平均して165回程度である。これは、各校のスケジュールによって前後している。小学校は、学校給食法第8条に実施基準により、市の回数を設定している。原則として毎週5回実施となっており、これにより各校統一の回数だ。

○会長：

(2)は「タイトル変更を考慮必要」だが、第1期校のときの検証内容の文章や前回の会議での資料1に書かれている委員からの意見を読んでも、タイトルがあまりマッチしていないのではないかとということだと思う。後ほど意見をまとめてほしい。

(3)と(4)については、「タイトル変更は不要」とのことだ。(5)もタイトルは問題ないが、検証内容は新しい給食費を踏まえたものにしてほしいということだ。値段が変わったことで給食内容がどうなったか、ということも考えてはどうかとを感じる。(6)も「タイトル変更不要」とのことであった。

(7)は、このタイトルはこのままではおかしいので、後ほど具体的に考えてほしい。

(8)も変更必要になっている。中学には嘱託員ではあるが、全校に栄養士が配置されている。このタイトルについては「配置」ということだけでなく、前回の議論でも「連携」という言葉を入れてはどうかということもあった。配置は既にされているので、それを踏まえてどのような検証にするのかということを考えてほしい。

(9)と(10)は、このままでよいという意見であった。

(11)は、新規の項目だ。食器や食缶についての項目を起こしてはどうかという意見であったと思う。

○委員：

食器の破損状況は各校に確認すれば出ると思うが、そうした数値だけのことではなく、問題なのは1期と2期で違う食器が使われて部分があり、できれば統一した方が良いのではないかと趣旨の意見を述べた。

○会長：

ただ今の意見を踏まえての調整をお願いしたい。

(12) だが、前回のその他に書かれている件で、今回はもうその事項についての検証は必要ない、という意見も出ていたと思う。逆に、この際その他で検証しておいた方がよいというものがあれば、協議してほしい。

○委員：

(11) の食器についてだが、現在の2種類とはどういうもので、統一したい理由を教えてください。

○委員：

第1期校の食器選定時に飯椀と汁碗をそれぞれ決めたが、同じ大きさのものに色違いのラインで見分けるようにしたが、大変混乱した。そこで、第2期校の時にはきちんと見分けられるようなラインにした経緯がある。

指導する教員側の意見も見分け難いということなので、第1期校の食器も買い換えていきたいということだ。四中では何とか遣り繰りして1学年分を交換したところ評判が良かったが、そのことだけに予算を使えないので交換は進んでいない。

また、別件だが、三中では配送距離の問題等で食器の破損が多く、苦慮していると聞いている。そのために補充するのが精一杯で、新しいラインのものに買い換えられないのが実態のようだ。

できれば、第2期校と同じ仕様のお椀を買い揃えてほしいという要望をしているところだ。

○会長：

1期と2期の差についての考察ということだと思う。加えて補充の問題もあるようだ。この際、ここでの検証によって、改善が進めばよいということだと思うので、議論してほしい。

○委員：

中学では、弁当持参者と給食と食べる場所が違う、ということを知ったことがあるがどうなのか。

○委員：

私の勤務校にはランチルームがないので、別々に食べるということにはできないが、そうした環境がある学校ではできるかもしれない。ランチルームがない学校で別に場所を用意することは無理だと思う。

○委員：

私の子どもは一中に通っているが、同じ教室で給食と弁当の生徒と一緒に食べている。

○委員：

子校の側でも、中学での給食指導については全て理解しているわけではない。

以前小学校でも、アレルギーが大変厳しい児童の食事への混入を防ぐために、他の場所で喫食することはあった。そうした理由で、中学でも別室で食べている生徒がいないとは限らないと思う。

○会長：

アレルギー対応ではなく、別室で弁当を食べている実態があるということの調査だと

思う。

○事務局：

(4) の項に家庭弁当のことがあるので、そこで確認してはどうか。

○会長：

給食と弁当持参者の交流に関して検証してみたい。

それでは、本日参集の委員を2グループに分けて、各項目について意見を交わす時間を取ってみたい。

暫時休憩とする。

(この間、グループ討議)

○会長：

再開する。

Aグループの検討結果を報告してほしい。

○副会長：

大きな2番のタイトルは「親子方式による中学校給食の検証」とした。

(2) は、「給食提供の実態」とした。

(7) は、「昼食時間」とした。

(8) は、「栄養士の職務について」とした。

以上のようにしてはどうかという意見だ。

○会長：

Bグループの討議結果を報告する。

2番の大きなタイトルは検討しなかった。

(2) は、「親子給食の運営管理について」とした。

(4) は、タイトルは良いのだが、家庭弁当希望者への各校の配慮について調べたらどうかという意見だ。

(7) は、「昼食時間」とした。

(8) は、「栄養士の活動・連携」とした。

(11) は、「等」を入れて、食器以外にも調べることにした。

(12) についてだが、特にいらぬのではないかという意見だ。

それでは、ここまでの発表に対する意見を求めたい。

最初に大きな2番のタイトルについてだが、Aグループの意見では少し大きなテーマ過ぎるような気もするので、元のタイトルを基本に再度検討したい。

(8) は「栄養士の職務について」ということだが、栄養士の職務範囲の検証となると分掌事務の検証という方向になるといけないので、もっと具体的な小と中の栄養士の連携というようなものの方が良いのではないかと感じた。

(2) は、Bでも実態という意見は出たが、Aの意見の方がより具体的のような気もする。

○委員：

感覚的には「親子給食の管理運営」だと、議論の範囲が広がりやすくなると思う。

○会長：

それでは (2) は、「給食提供の実態」としたい。

(7) は、同じ意見なので、決定とする。

(8) は、どうするか。

○委員：

中学の栄養士から、第1期校の準備検討委員会の中で「なぜ栄養士の職務について、を細かく検討しなかったのか」という意見を受けたことがある。

各校に配置されたものの、その動きが決められていないもので職務内容が異なっているということだ。その当たりの統一基準を作ってもらえないかということだったので、「職務について」とした。

○会長：

中学の栄養士からの意見ということだが、「職務」は審議会の議論する内容ではない気がする。どういう職務内容で採用されたかということになると、われわれの議論の域を超えていると思うので、もっと具体的な、各校での連携やどのような活動をしているのかを検証することが相応しい気がする。

「栄養士の活動・連携」でどうか。

○課長：

ただ今のグループ討議で「職務」という言葉が出た。言葉どおりに、嘱託員としての分掌に関する事項となると、審議会での決定事項ということには馴染まないと思う。もちろん、その業務内容が曖昧でよい、ということではない。当然小中学校の栄養士の連携を図る上では、必要な事項ではあるので、市の事務局において確認をしていきたい。

したがって、ここでのタイトルに「業務」「職務」という類の文言は避けてもらいたい。

○会長：

そのように進行したい。

(11) には「等」を付けるということによろしいかと思う。

(12) のその他であるが、Bでは現時点では特に追記する項目はないということだが、Aではどうか。

○委員：

特に意見はあがらなかった

○会長：

では、その他は必要なしということにする。

ここまでの、(1) から (11) への結論に対し意見はあるか。

(「なし」との発議)

タイトルは決定した。

議題2 アンケートの速報値

○会長：

事務局から説明を求める。

○事務局：

本日の報告は速報値だ。合計の数値が変わることはないが、パーセントの計算も済んでいないし、自由記入欄の集計も整理していない。あくまで、実数での前回との比較である。

給食が始まって「良かった」と感じた生徒の数は、3,280人で、第1期校のときと遜色ない数値といえる。次に、給食の時間についてだが「ちょうど良い」と感じている生徒と、「短い」と感じている生徒の数が拮抗しており、前回と同じような結果だ。次に、給食への満足度だが「美味しい・普通」と感じる生徒は前回の76.9パーセントに対して、今回は3,000人弱の生徒が同じように感じており、若干だが、増えているのではないか。また、味付けや温度についても、大多数の生徒が「ちょうど良い・適温」と評価していることも、同じ傾向を示している。献立についての質問では、圧倒的な評価で「バランスがとれている」との回答を得た。これらのことから、多くの生徒は、給食に満足していると評価してよいのではないかと、現在のところは感じている。

次に、多くの保護者からの質問があがる「量」が少ないのではないかと、との問いに対しては、生徒の回答の最も多くが「ちょうど良い」で2,340人、第二位が「少ない」の684人、第三位が「多い」の590人という結果になった。この数値とH欄の、品目ごとの「残す」「残さない」の数値、あるいは後日報告するが、実際の残菜量調査の結果をあわせて、いずれ判断を仰ぎたい。

次に、I欄の準備や後片付けについては、圧倒的な生徒が「協力できている」との回答で、そうならば、食べる時間が「短い」ということについては、どう捉えるべきなのか、との疑問がわくところだが、本件は、現場の先生方の意見を待ちたい。

最後の質問項目の給食を申し込まない理由だが、喫食率が95パーセントを超えている現状においては、既にこのデータが、あまり多くのことを語れない状況になっているが、予想していた「アレルギーがあるから」という生徒があまりにも少なかったことを意外に感じている。経済的な理由、という言葉が出てこないことを祈りたい。以上だ。

○会長：
質疑を受ける。

○委員：
給食を食べないし、弁当も持ってこられないという生徒はいるのか。

○事務局：
そこまでの確認はしていない。

○委員：
朝と夕の2食で、給食も弁当も持参しない生徒がいるということは聞いたことがある。給食の無い日は、他の生徒と一緒に弁当を持ってくるという生徒がいるようだ。ただし、保護者の事情や経済的なことではないそうだが、本人の意思で昼食を抜いているそう。

○会長：
弁当持参者の実態について、事務局で確認する必要があると思う。

○課長：
持参できない理由が経済的な事情であれば、支援の方法としては生活保護や準要保護といった制度があるが、その生徒の気持ちの面ということになると、食育とも関わるので、生徒と保護者と学校の三者が話し合って解決に向けなければならないと思う。そのことを調べても、意見書の中でどう取り上げてよいのかが難しい気がする。

○委員：
三者面談があるので、担任は把握していると思うので、調査の必要はないと思う。

○課長：

もしこの中に入れるのであれば、生徒が気持ちよく食べる環境を整えるということに全てが含まれると思う。そのことだけを取り上げて項目とするのは、趣旨と違ってくると思う。

○会長：

そのことを新しい項目とするための調査は必要はないと思うが、成長期の子どもにとって心配なので、栄養士と担任とで連携して指導する必要は感じた。

○委員：

申し込まない理由の「その他」だが、どう書かれているのか。

○事務局：

全てを見ていないので明言できないが、そこまでは書いてくれていないと思う。書いてあれば、その内容を分析して発表したい。

○会長：

その点は稀なケースにもなるので、タイトルにあがった項目だけにするのか、各校に任せるということでよいか。

○事務局：

関連する項目でもあり、意見書に具体的に上げるかどうかは別にして、学校には、弁当も給食も食べない生徒がいるかどうかの確認はしてはどうか。

○会長：

心配なことでもあり、アンケートの「その他」に書かれている内容をよく確認してほしい。

アンケートについては以上とする。

最後に、事務局から報告はあるか。

○事務局：

次回の会議は4月24日としたい。別途お知らせしたい。

○会長：

この後は、田無三中の給食を試食する機会としたい。

本日の会議は散会とする。

以上